



日 次

はじめに、吉良氏800年祭実行委員会

会長 斎藤 吾朗

吉良氏関係略系図

吉良氏800年の旅マンガで行く

吉良氏ゆかりの地紹介

吉良氏ゆかりの地案内図

吉良氏略年表

おとがき

すずき孔

62 60 58

8 55

4

3

2

1



はじめに

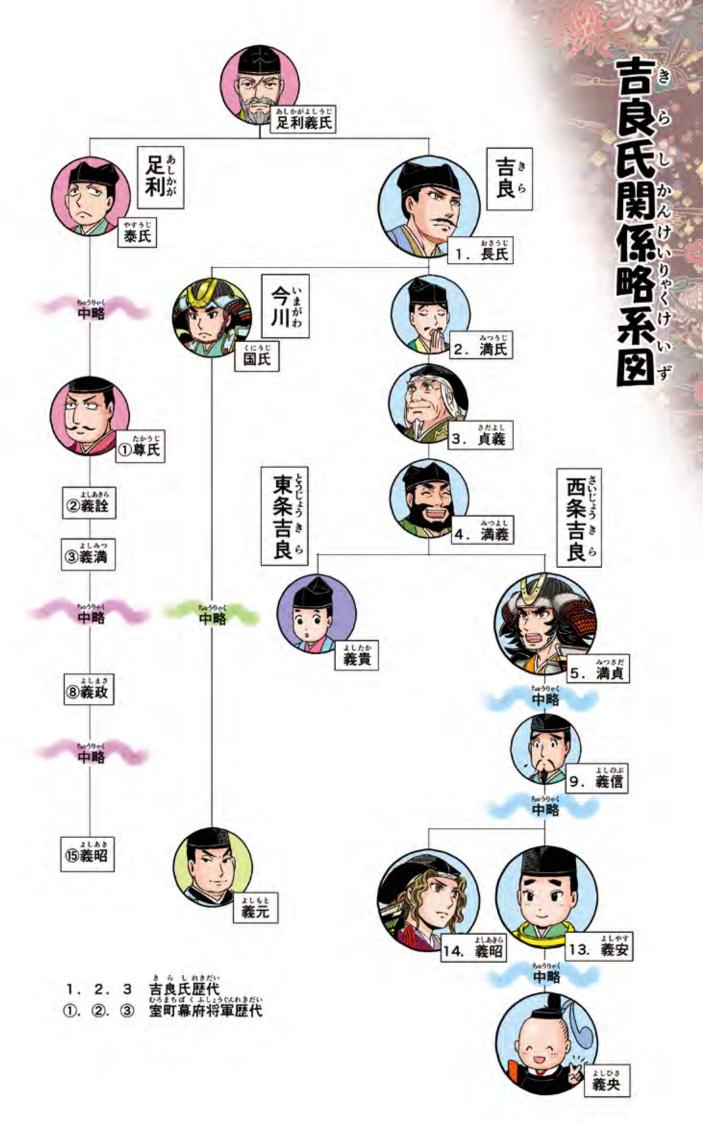
市民のさらなる融和を図る歴史イベント「吉良氏800年祭」を開催します。当たるとともに、西尾市幡豆郡三町合併十周年とも重なる年であるため、この機会に当たるともに、西尾市幡豆郡三町合併十周年とも重なる年であるため、この機会に「二〇二」(令和三)年」は、室町幕府足利将軍家の重要な一門である吉良氏が現

本書は、「吉良氏800年祭」PRのため、吉良氏の歴史を誰でも容易に、かつ楽本書は、「吉良氏800年祭」PRのため、吉良氏の歴史を誰でも容易に、かつ楽

に触れていただければ幸甚です。
古良氏最後の当主義昭とその重臣富永伴五郎を中心に、誇り高き吉良氏の姿を分かり古良氏最後の当主義昭とその重臣富永伴五郎を中心に、誇り高き吉良氏の姿を分かり本書では、吉良氏初代長氏、南北朝時代の動乱を駆け抜けた武将満貞、そして中世

令和二年二月

吉良氏800年祭実行委員会 会長 斎藤 吾朗





















0

知ってるよ













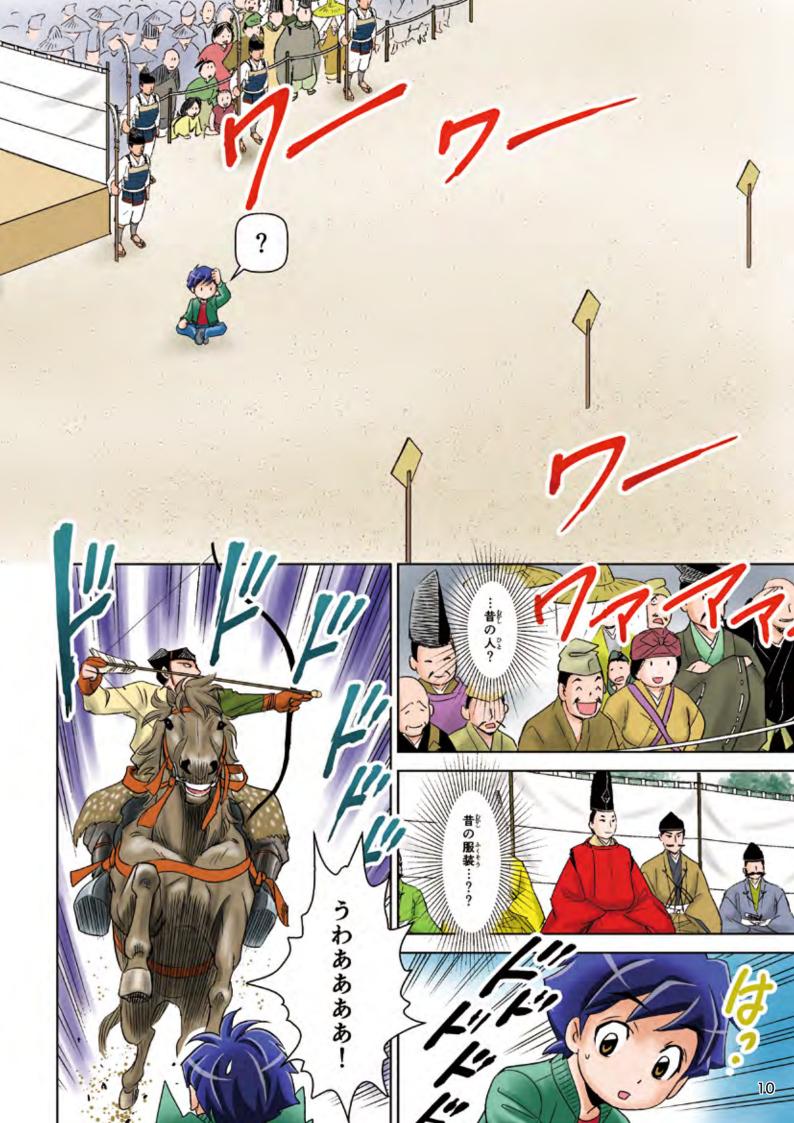






























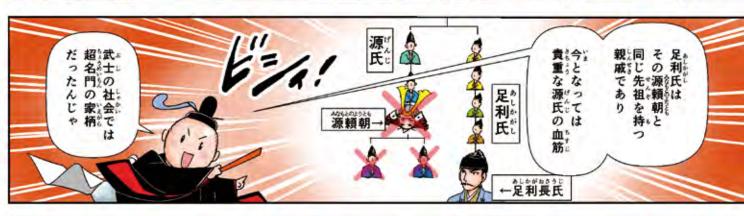


































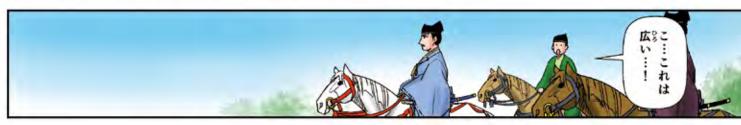




そなたに任せよう





































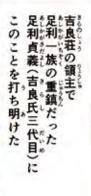
















で 大皇に御味方して 大皇に御味方して ははは はは

むしろ遅いくらいじゃよくぞ御決心なされた



























































はい 管領という を を なみに を も なみに







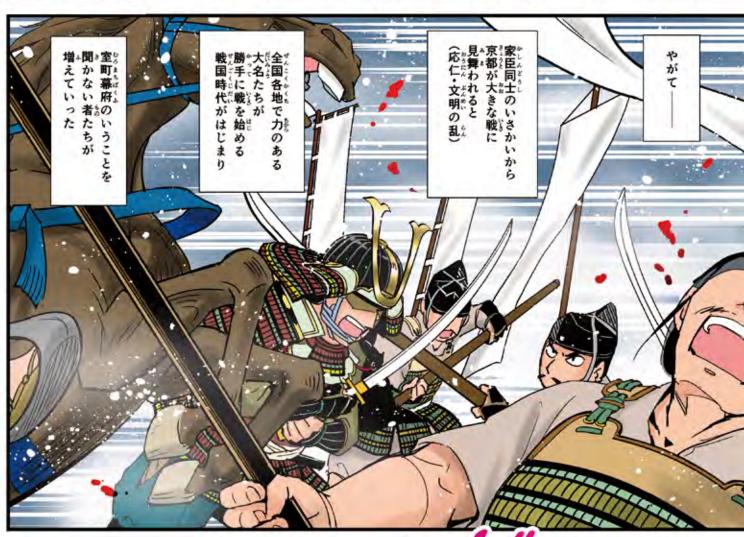


























































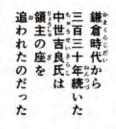






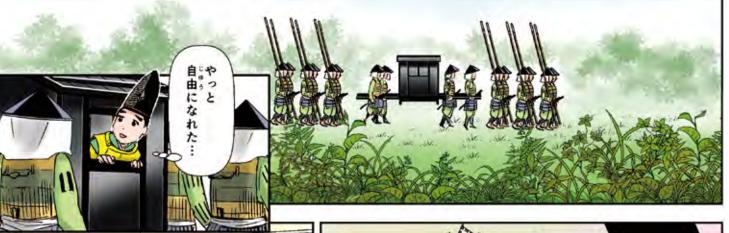






こうして













































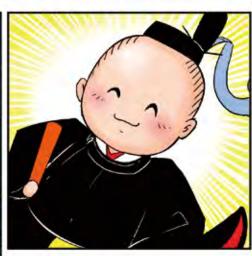






































きっと埋もれているこの町のあちこちに

長い年月をこえて 何の思いは その思いは

石にほんの小さな ころにさな 消えてしまったけれどほとんどがはらの足跡は



|良氏ゆかりの地紹介

登場人物に関わる史跡などを紹介します 本書に登場する市内の吉良氏ゆかりの史跡や

1 西尾城跡にしおじょうあと

市指定史跡

(西尾市錦城町・西尾市歴史公園内)

としました。 がて「吉良」を名乗り、この地を拠点 条城といわれました。義氏の子孫はや 築いたと伝えられる城で、はじめは西 在の西尾市地域に進出した足利義氏が 承久の乱(一二二一年)の戦功で現

り、最後は大給松平氏六万石の城下町 丸の一部が市指定史跡です。 として栄えました。本丸と姫丸や東之 江戸時代は代々譜代大名が城主とな

2御剣八幡宮

(西尾市錦城町・西尾市歴史公園内)

切」を納めることから御剣八幡宮と称す。御神体として源家相伝の名刀「髭 したといわれています。 ため現在地に勧請したと伝えられま たものを西尾城築城の際に城内鎮護の かつて松山(西尾市山下町か)にあっ 西尾城の本丸に鎮座する神社です。 御神体として源家相伝の名刀「髭

の際に城下に分散したと伝えられます。 まわりに六つの御堂がありました 一五九〇年の田中吉政の城郭拡張

分自身にたとえたのでしょうか。

3鶴ケ崎天満宮

(西尾市鶴ケ崎町)

氏に吉良荘を譲りました。そして、吉ながら足利氏の家督を継げなかった長 良氏の初代となった長氏は吉良荘の領 地頭となった足利義氏は、長男であり 天満宮を造営したと伝えられます。 地経営に当たり、一二五一年に鶴ケ崎 ||||年)の後、三河国守護・吉良荘 長氏は天満宮の祭神菅原道真公を自 『今川家譜』によれば承久の乱(一

4 実相寺 (西尾市上町) **(釈迦三尊像)**

中心として栄えました。 代満氏が一二七一年に創建した吉良氏 多くの塔頭寺院もあり、三河臨済禅の の菩提寺です。往時は七堂伽藍を備え、 三河最古の臨済宗寺院で、吉良氏二

たといわれています。 して、この地方に初めて茶をもたらし 開山の聖一国師(円爾) は禅文化と

り」には、一般公開されます。 すが、毎年四月第二日曜日の「花まつ が安置されています。普段は非公開で 造立した釈迦三尊像(県指定文化財) 参道正面の釈迦堂(県指定文化財) 吉良氏五代満貞が一三六二年に



御剣八幡宮

西尾城本丸丑寅櫓



鶴ケ崎天満宮



実相寺釈迦三尊像

ら康全寺

(西尾市満全町)

吉良氏五代満貞の妻が開基にかかわっ を満貞院、元は吉良山満全寺といい 前身といわれる曹洞宗寺院です。院号 たと伝えられます。 うち神宮寺釈迦堂と金剛王院大日堂が 西尾城内にあった御剣八幡宮六坊の

ることがわかっています。 あり、吉良氏菩提寺実相寺の古鐘であ 川州実相寺 僧堂前鐘也」との刻銘が 西尾城下の中心寺院として栄えてい 康全寺の梵鐘(市指定文化財)は、「三



⑤今川氏発祥の地 (西尾市今川町) 市指定史跡

供養塔があります。 て、南北朝時代に活躍した今川了俊の 西尾中学校の南側に石碑が建てられ

名から今川を名乗ることになります。 やがて長氏の次男国氏に譲られ、この地 譲り受けました。吉良荘内の今川の地は 本宗家を継げなかったかわりに吉良荘を 吉良・今川氏の祖、足利長氏は足利

なります。 すると、しだいに衰退していくことに 名として発展しますが、桶狭間の戦い (一五六〇年) で今川義元が討ち死に やがて、今川氏は守護大名・戦国大

2東条城跡とうじょうあと

③花岳寺(東条吉良氏墓所)

(西尾市吉良町岡山)

氏の菩提寺です。寺伝では、吉良氏四

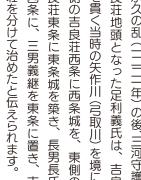
臨済宗妙心寺派の寺院で、東条吉良

(西尾市吉良町駮馬)

西側の吉良荘西条に西条城を、東側の 良荘を分けて治めたと伝えられます。 を西条に、三男義継を東条に置き、 吉良荘東条に東条城を築き、長男長氏 荘を貫く当時の矢作川 (弓取川) を境に 吉良荘地頭となった足利義氏は、吉良 承久の乱 (二二二年) の後、三河守護

平氏の居城跡で、曲輪や土塁の一部が残 り、中世の城の様子をよくとどめていま 東条城は東条吉良氏、のちに東条松

され、往時をしのぶことができます。 平成五年に城門・物見櫓などが復元



かわったと思われます。 源寺の跡があり、吉良義貴が開基にか 殿と号しますが、花岳寺門前参道東側 明治初年に廃寺になった塔頭霊



東条城跡

康全寺本堂

今川氏発祥の地



花岳寺東条吉良氏墓所

禅師)を招いて創建したといわれます。 ぱんじ いいます いっぽうまょういっ にっぽうまょういつ は海 義、吉良持広などの墓が並んでいます。 墓所があり、初代吉良義貴、その父満 東条吉良氏初代義貴の法名は霊源寺 境内奥の階段を上ると東条吉良氏の



②今川義元の首塚 いまがわよしもと くびづか (西尾市駒場町) **(東向寺)**

川氏に反逆した結果、その傘下に入る が、一五四九年と一五五五年の二度今 ことになります。 今川氏は吉良氏の分家であります

時代に作られた義元の位牌も安置して 寺は浄土宗西山深草派の寺院で、江戸 地に葬られたといわれています。 ることから配下の戦死者とともにこの した義元は、当時の住職が伯父にあた 狭間の戦い(一五六〇年)で討ち死に 首塚と伝えられる石塔があります。 東向寺の東の山の中腹に今川義元の



伝今川義元の首塚

藤波畷古戦場と伴五郎地蔵(右)

砂藤波畷古戦場 (伴五郎地蔵)

(西尾市吉良町寺嶋・瀬戸)

方々に守られています。 在でも伴五郎地蔵とよばれて地元の 討ち死にした地には地蔵が祀られ、 党全滅したと伝えられます。伴五郎が せるため、 将富永伴五郎忠元が主君義昭を逃れさ これに対し、吉良方では二十五歳の名 となった城の西の藤波畷一帯は沼田 の徳川家康)は吉良氏十四代義昭が籠 で、通れるのは細いあぜ道のみでした。 る東条城へ総攻撃をかけます。主戦場 月、三河統一を進める松平元康(のち 桶狭間の戦いの翌年の一五六一年九 城から討って出て、 一族郎

1 華でラじ

(西尾市吉良町岡山)

義周までの墓が整然と並んでいます。 す。墓所には義安以下、最後の当主 基として再興した吉良家の菩提寺で 年に吉良義定が吉良氏十三代義安を閚 臨済宗妙心寺派の寺院で、一六〇〇

もに一般公開されます。 にある経蔵内に安置する白衣観音とと 忌の際には、 と伝えられています。普段は非公開で んだものといわれ、自ら彩色を施した (県指定文化財)は、 御影堂に安置する吉良義央の木像 毎年十二月十四日の吉良公毎歳 義央が寄進した境内西側 五十歳の姿を刻



華蔵寺吉良家墓所



華蔵寺経蔵



吉良義央の木像





◆吉良氏略年表

時代・年代	ことがら	時代・年代	ことがら
鎌倉		三九一	六代吉良俊氏が室町幕府の要職引付頭人に
=	承久の乱。 足利義氏が三河国守護・吉良荘地頭に	三九二	相国寺供養の随兵に俊氏が加わる
	義氏が西条城・東条城を築く?		
	このころから初代足利(吉良)長氏が鎌倉幕府に出仕	室町	
五五	長氏が鶴ケ崎天満宮を造営?	一四〇九	七代吉良義尚が三河華蔵寺を保護
 七 	二代足利(吉良)満氏が実相寺を創建	一四九	義尚が浜松荘に賀久留八幡宮を造立
二七五	このころ満氏が越前国守護に		このころ古良氏が足利氏御一家(御三家)筆頭に
<u>二</u> 万 五	霜月騒動。 満氏の嫡子貞氏が討たれる	一四六五	八代吉良義真が京都の屋敷で盛大な犬追物を催す
	満氏が願成寺を開創?		
	三代足利(吉良)貞義が足利尊氏に鎌倉討幕を勧める	戦国	
	鎌倉幕府が滅びる	一四六七	応仁・文明の乱(~七七)
		一 八 一	義真死去。九代吉良義信が家督を継ぐ
南北朝		一四九三	明応の政変
二三六	建武式目の制定。室町幕府成立	一五〇八	明応の政変で失脚した足利義尹(義稙)が将軍に復帰。吉
	足利尊氏が征夷大将軍になる		良邸が仮御所に
	このころまでに貞義が浜松荘を領有	— 五 —	将軍義尹(義稙)京都を出る。十代吉良義元がこれに従い、
	貞義死去。このころまでに名字が足利から吉良に		吉良邸の仮御所は放火される
三四五	天龍寺供養の随兵に五代吉良満貞が加わる	五六	義信が家督を十一代吉良義尭に譲る。義尭の父義元はこれ
- 三五〇	観応の擾乱。四代古良満義が足利尊氏・高師直方、満貞が		以前に死去
	足利直義(尊氏弟)方に	-五七	吉良氏が浜松荘の領有権を失う
三五六	満義死去。東条吉良氏の分立?	<u>五</u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u>	~三〇の間に義尭が今川氏親の娘(義元姉)と結婚
三六〇	このころ満貞が幕府(北朝)に帰順	一五四〇	十二代吉良義郷が西尾城で討死?
_ 三 六 _	満貞が実相寺に釈迦三尊像を造立		
三八四	満貞死去		

あとがき

このマンガは西尾市に住む小中学生の皆さんに、この土地に昔住んでいた吉良氏のことを知ってもらいたいと思って描きました。

なぜ皆さんに地元の歴史を知ってもらいたかったのかというと、私自身の苦い経験があったからです。

集まってきたアシスタント仲間がいました。 私はマンガ家になりたくて、大学を出てから東京でマンガのアシスタントをしていました。その仕事場には私と同じようにいろんな地方から

ら地元に20年以上住んでいながら、ふるさと西尾について何も知らなかったからです。何もないただの田舎だと思っていたのですから当然です。 仕事の合間になると、みんな自分の生まれた土地の名物や歴史について楽しそうに話すのです。ですが私だけそれができませんでした。なぜな

私はそれがとても情けなく、恥ずかしいことだと思いました。

見え、地名一つにも感動し、「何もないただの田舎」だったのが何もかもが輝いて見え、ここで生まれたことが心底うれしくなりました。知識 いろいろな人たちの感動的な人生があり、時にはそれが日本の歴史全体にも深くかかわっていることを知り、衝撃を受けました。 そうして実家のある西尾に帰ってくると、子供のころから見慣れていたはずの何の変てつもない山や川、 それから生まれ育った三河のことが気になり、特に歴史に興味を持って勉強するようになりました。そしてこの土地に実は大変な歴史があり、 お寺や道が、まったく違った風景に

とにそれを楽しんでくださる人が徐々に増え、20年経った今ではそれを仕事にするようになってしまいました。 私はそんな体験を一人でも多くの人に知らせたいと思い、地元の知られざる武将たちの一生をマンガに描くようになりました。ありがたいこ

とは恐ろしいものです。

五郎がかつてそこを歩いて、笑ったり泣いたり怒ったりしたであろう場所に行ってみてください。 います かい このマンガを読んだら、ぜひ吉良氏ゆかりのお寺や神社、史跡に行ってみてください。足利長氏が、吉良満貞が、皆さんもこのマンガを読んだら、ぜひ吉良氏ゆかりのお寺や神社、史跡に行ってみてください。 足利長氏が、吉良満貞が、 古良義昭や富永伴

じるかもしれません。 遠い遠い昔の出来事や人々のことが、少し身近に感じられると思います。そして何百年を経てそこに自分が立っていることを少し不思議に感

自分の土地の歴史を知ることは、自分を構成する要素を知ることでもあります。

信じています。 誇り高く、運命に負けずに生き抜いた彼らの「心意気」は、この土地に生まれ育った皆さんの中にもきっと受け継がれ生き続けていると私は

最後になりましたが、本書制作にご協力をいただいた伊藤哲央さんはじめ吉良氏800年祭実行委員会の皆さんにお礼を申し上げます。

2020年2月

すずき 孔

【著者紹介】

すずき 孔 (すずきこう)

愛知県西尾市出身。マンガ家。大学在学中の 1992 (平成 4)年、 『週刊少年チャンピオン』でマンガ家デビュー。2009(平成 21)年には井伊直政を主人公とする『紅塵賦』が、第一回プロ ダクション I.G × MAG 大賞 (審査員長/押井守) の佳作を受賞。 主な作品に『茶の涙』(マッグガーデン刊/大阪国際マンガグラ ンプリ COOL JAPAN 作品賞受賞)、『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史第 13 巻』(KADOKAWA 刊、監修/山本博文)(以 上 P.N. 水面かえる)、『まんが織田信長公伝・麒麟の城』(小牧 市制作、原作/入谷哲夫)、『りにもが見た 小牧長久手の戦い』 (長久手市制作、監修/小和田哲男)、『マンガで読む真田三代』 (戎光祥出版刊、監修/平山優)、『マンガで読む戦国の徳川武 将列伝』(戎光祥出版刊、監修/小和田哲男)、『マンガ霊仙三蔵』 (監修/霊仙三蔵顕彰の会)、『マンガで読む井伊直政とその一 族』(戎光祥出版刊、監修/小和田哲男)、『マンガで読む 新研 究 織田信長』(戎光祥出版刊、監修/柴 裕之)、『マンガで読む 信長武将列伝』(同)などがある。横浜市在住。

マンガで行く 吉良氏 800 年の旅

著者すずき孔

令和2年3月26日 発行

発 行 西尾市文化遺産地域活性化実行委員会

協 力 吉良氏 800 年祭実行委員会

印 刷 株式会社エムアイシーグループ

